

平成19年度 吉野中学校 学力向上委員会の目標等の達成状況

1 現 状

<ul style="list-style-type: none"> ・「平成18年度徳島県学力調査」の本校の結果は、漢字や計算等の「基礎的・基本的な力」をみる問題の平均正答率では、県のそれとほぼ同じであった。しかし、国語においては「書くこと」の領域において県の平均を下回っており、長い文章を読んだり書いたりする作業が苦手で、あきらめがちな生徒も見られる。また、数学でも同様に、論理的な思考力を要する問題には取り組む気持ちが弱い。課題に対して根気強く継続して取り組める姿勢を育てたい。 ・学習成績については上位と下位の二極化が見られる。意欲の低下からの無回答率も高い。そこで、学習習慣の定着を図るために、月曜日の放課後を利用した学習を行っている。 ・本校は生徒と教師の関係が密接であり、全教職員が学校生活の中で生徒に積極的に関わり、一人ひとりに応じたきめ細かい指導を行っている。こうした伝統は残していきたいと考える。

2 目 標 等

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒に「やる気」を持たせ、「わかる授業」を実践する。 ・学習環境を整え、学習習慣を定着させるとともに、継続的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ・読書の機会を増やし、豊かな感性や読解力を養うとともに、言語についての知識を身につけさせる。
具体的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整備し、学習内容の基礎・基本を重視し、生徒一人ひとりが自己の課題解決が図れるように支援して、学習習慣を定着させる。 ・朝の読書の充実を図り、読書への興味や意欲を持たせ、豊かな心や表現力を育成するとともに読解力の向上に努める。 ・各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間との相互関係について、「仲吉ノート」を活用することによって、書く力を育てるとともに、よりよく学び・生きることについて、自ら考え実践する態度を養う。
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における観点別評価のうち、「興味・意欲・関心」の観点について、それぞれすべての生徒が「B」以上になるようにする。 ・各定期試験において、問題作成者が設定する達成度（予想平均点）に生徒のうち6割以上が到達できるようにする。 ・すべての生徒が年間20冊以上の本を読めるようにする。 ・すべての生徒が作文のきまりを理解して、短作文が書けるように

	する。
具体的方策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育も含めて、生徒のつまずきを把握できるように情報収集に努め、定期的に学力向上委員会を開いて共通理解を図る。 ・毎週月曜日を「学習の日」と定め、部活動休養日として、全教職員が指導にあたり、すべての生徒に放課後学習を実施して、基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・基本の定着と学習習慣の育成を図る。 ・朝の読書タイムを継続して行い、読書の習慣をつけるとともに、「中学生に読んでほしい本」の紹介を行うなどの読書指導の充実を図る。 ・国語科だけでなく、すべての学習活動において「書く」作業を重視し、文章を書く上でのきまりを理解させる。また、ノート指導についても徹底させる。 ・すべての教育活動に「仲吉ノート」を関連させて活用し、自分が学んだことや考えたことを、まとまった文章として残す習慣を持たせる。

3 達成状況等

数値目標の達成状況	<p>(国語) 課題テスト等を継続的に行っており、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。しかし、学級に1・2名程度興味・関心が不十分な生徒が見られる。その一方で学年当初よりも意欲が向上した生徒も多数見られる。定期テストの到達度は期待値にほぼ近づくことができた。読書については、「図書館だより」で推薦図書を紹介するなどして、年間一人あたり平均20冊以上の本を読むことができた。作文指導についても学年ごとに指導を徹底して行うことができて、特に3年生は書く力が大きく向上した。</p> <p>(数学) 定期試験において問題作成者が設定する達成度に5割までは到達していたが、6割までは届かなかった。観点別に見てみると「数学的な見方や考え方」が32%、「数学的な表現・処理」が61%、「数量・図形などの知識・理解」では58%という理解度であった。「数学への関心・意欲・態度」では6%の生徒が「C」判定である。</p> <p>(社会) 「C」判定の生徒が数名いる。期待平均点には5割程度の者が到達しており、ときには7割を超えたこともあった。記述力が弱い生徒が見られた。</p> <p>(理科) 3年生についてはおおむね達成できている。1・2年生については、教科書やノートを出さない、ノートをとらない、寝るなどの行動をとる生徒がおり、指導してもなかなか直らないため「関心・意欲・態度」の観点で「C」になった生徒もいる。</p>
-----------	---

	<p>(英語) 少人数指導を実施している1年生においては「関心・意欲・態度」の観点にはほぼ達成できている。すべての生徒に指導が行き届くこともあり、問題作成者の設定する到達度に6割以上の生徒が到達している。少しずつ改善されているが、授業態度に指導の余地がある生徒が数名おり、すべての生徒が「B」という目標には至っていない。</p> <p>(音楽) 「関心・意欲・態度」の観点において、全員「B」以上の評価ができている。定期試験における到達度も6割以上である。音楽を鑑賞して、思ったことをうまく文章化できない者もいる。</p> <p>(美術) 「関心・意欲・態度」の観点で「C」の生徒は数名いるが、授業に毎回出席できている生徒で「C」は非常に少ない。技術面では十分とは言えないが、完成した作品に対してほとんどの生徒が達成感をもっている。</p> <p>(体育) 生徒の「関心・意欲・態度」の向上については、理由なしの見学が減少しており、ほぼ達成することができた。</p> <p>(技家) 基礎・基本の定着が図れるように、より体験的・実践的な学習題材の設定を行った。それにより、生徒の興味・関心が高まりつつある。</p>
成 果	<p>(国語) 読書指導・作文指導ともに定着して、活動の輪が広がり成果を上げている。今後も継続して指導していきたい。</p> <p>(数学) 少人数指導やTTなどのきめ細かい学習指導によって、生徒の学習意欲の向上が見られ、自主勉強においても数学を学ぶ生徒が増えてきた。また「数量・図形などの知識・理解」の「C」判定が3%減少し、小テストなどでも合格点をとる生徒の割合が増えてきた。</p> <p>(社会) 教科書を毎時間音読させることによって、苦手な生徒も音読に挑戦でき、授業に集中力が生まれた。また、ノート学習にも力を入れ、板書を写すだけでなく、自分で復習問題を作ったり重要語句をまとめたりして、授業の復習を効果的に進められた。定期的にノートをチェックして評価することで、生徒の意欲を高められた。また誤字をチェックすることで間違いやすい漢字を説明できた。その結果記述問題もあきらめることなく書く生徒が増えて、「社会に対する関心・意欲・態度」も向上してきた。</p> <p>(理科) 理科に興味・関心をもって取り組む生徒は多い。学年や単元によっては生徒の約8割が達成度をクリアすることができた。</p> <p>(英語) 生徒理解に努め「わかる授業」の展開を工夫して、基礎・基本を重視した取り組みを継続的に行ってきたので、学習意欲がさらに高まりつつある。ノートやプリントのきめ細かいチェック</p>

	<p>や、学習方法のアドバイスについても効果が表れつつある。</p> <p>(音楽) すべての生徒に「やる気」を持たせるために、授業の出席率の低い生徒には個別に呼びかけた結果、意識して来られるようになった。人権に関わる教材では、仲吉ノートを活用して書く力を養い、様々な視点から人権感覚を育てることができた。毎時間自己評価カードを記入することを全員が習慣化できた。</p> <p>(美術) 関心や意欲を持って制作にあたる生徒が増えており、完成した作品に対して、おおむね満足感を持っている。</p> <p>(体育) 2・3年生は選択体育を自主的に活動することができた。1年生は集団活動にも真剣に取り組んでいた。</p> <p>(技家) 技術では身の回りを整理するものの制作や応用ソフトウェアの利用等、家庭科では保育実習・調理実習・ティッシュカバー製作等の題材を設定し、生徒の興味・関心が高まったことにより、技能の定着が図れた。作品の失敗が少なくなり、生徒が達成感を味わうことができた。</p>
<p>問題点</p>	<p>(国語) 課題を与えられることに慣れてしまい、自ら学ぶことの意味が十分に育っていない。根気強く読解できない生徒が見られる。</p> <p>(数学) 数値目標の達成状況からもわかるように「数学的な見方や考え方」の正答率が低い。学んだ知識を活用したり応用したりすることができていない。また、数学への関心が低い生徒へ、どのような手だてを実施していくかも課題である。</p> <p>(社会) 基礎・基本が身につけていない生徒が見られる。授業の忘れ物が多い。発表の仕方が身につけていない。生徒のつまづきを把握しきれていないので対応が不十分である。</p> <p>(理科) 授業にはおおむね真剣に取り組んでいるが、理解度や定着度において不十分である。授業をどこまで理解できているかという評価が不十分で、授業改善につなげられていない。</p> <p>(英語) 基礎・基本の定着が図りにくい生徒に対する適切な指導方法を、様々な角度から試みる必要がある。可能であれば、個別指導が行える教員数の増加と、授業時数確保のための行事の精選も必要である。</p> <p>(音楽) 授業時数が限られているので実技が多くなりがちである。「書く」機会をもっと増やしたい。</p> <p>(美術) 美術に対して苦手意識のある生徒は、題材によって興味・関心にばらつきがある。既成のキャラクターを使いたがる傾向があり、自ら考え独創的な作品を作る発想力や構想力に欠ける生徒が多いように感じられる。</p> <p>(体育) 2・3年生は選択制で球技を実施したが、自分の興味・関</p>

	<p>心が持てない種目への取り組みが不十分であった。また複雑な人間関係から、協力できない者も見られた。</p> <p>(技家) 個人の生活経験のばらつきにより技能の差がある。一人ひとりに「B」以上の評価をもたせるために、家庭科では TT を導入して個人にあった指導を行えたが、技術に関しては個人をカバーするのは難しい状況である。</p>
<p>対 応 策</p>	<p>(国語) 読書量の増加を目標に、生徒の希望をもとに図書を購入し、学級文庫を充実させる。「読み」「書き」の指導も継続的に行い、読解力と応用力を育てる。</p> <p>(数学) 「数学的な見方や考え方」を問う質問を授業の中に取り入れる必要がある。グループ学習で出されたすばらしい見方や考え方を、指導者が取り上げて全体に返していけば、より探求する心がつながるだろう。また仲吉ファイルにおいて知の総合化ができるような教材・教具の研究も必要である。数学の関心が低い生徒に対しては、基礎を理解していない場合がほとんどなので、つまづきを個別のプリントで発見して、根気強く指導していきたい。</p> <p>(社会) 社会科が身近に感じられるような授業を行う。忘れ物については、担任や家庭との連携を密にして対応していく。個々のつまづきに対して個別指導を行っていく。</p> <p>(理科) 生徒の理解度や反応を見ながら授業の改善を行う。学習内容のふり返りや理解・定着を進めるための時間を確保する。意欲が低い生徒が活動できるような授業の展開を工夫する。</p> <p>(英語) 教員間で落ち着いて対応策を話し合う十分な時間を確保したい。個別に家庭学習ができるように課題を与え、丁寧に根気よくチェックして、学力を定着させる努力をする必要がある。</p> <p>(音楽) 自己評価カードの活用を継続させて、目標のふり返りを大切にして授業内容を深めていきたい。準備物の徹底や忘れ物の減少や出席率の増加についても、自ら反省して向上させていきたい。</p> <p>(美術) より多くの生徒が興味を持てるような題材を選択したい。テーマについて、ある程度制限した方が制作しやすい生徒もいれば、自由度を上げた方が制作しやすい生徒もいるので、個別指導で対応していく必要がある。</p> <p>(体育) 体を動かすことの楽しさや喜びを体感させるとともに、そこで得られたものに気づかせる。運動への意欲を高め生涯体育への橋渡しをする。</p> <p>(技家) デジタルコンテンツを利用して、個人のつまづき箇所を自分で調べられる環境を整えたり、能力の高い生徒に補助してもらったりして、技能の習得に生かしていく。</p>